



OSS 会員研修（経営戦略）配信ご案内

新規配信案内

JPBM 会員研修（中小企業の経営戦略）

テーマ「知っておくべき“IoT”の世界的潮流と これからの中小企業の経営戦略」

講師：JPBM 会員 弁護士 金子博人氏

【掲載期間】

平成 28 年 4 月 21 日～
平成 28 年 10 月 21 日
(予定)

【収録時間】

約 80 分
(5 コマ)

【研修の狙いと概要】

グローバル経済や国家戦略等の大きな視点で時代を眺めたとき、一般紙やテレビでは取り上げられない風景が見えてきます。アメリカ、ドイツ、中国、そして日本を比較して、5年後10年後を見据えた戦略には大きな開きがありました。新年度を迎え、世界の中の日本の立ち位置に想いを馳せながら、これからの中小企業のとるべき経営戦略をじっくり考えるための契機になればと思います。国際派弁護士の金子博人氏は解説します。

1. アメリカでのインダストリアル・インターネットの大改革が始まる
 - 1) 93年にインターネットの民間開放
 - 2) 2008年のリーマンショック 不況と人の移動の中で大変革
 - i. GE
 - ii. シリコンバレーの大変革
2. ドイツの覚醒
 - 1) 11年11月 政府は、2020行動計画で、インダストリー4.0を採択
 - 2) フラウンホーファー研究所の存在は、官民学の連携で中核的な存在
 - 3) コンチネンタルは自動運転の覇者
 - 4) ドイツの部品会社の独立性
3. 中国と日本
 - 1) 中国は、メーカーがサービス業をするのは国民性そのもの
 - 2) 日本は、職人体質で、逆にまったく不適
4. 自動車産業にみる日本の危機
 - 1) 自動運転は、アメリカとドイツ（ことにコンチネンタル）に敗北
 - 2) 産業用ロボット、無人建機、農機など、日本が優位の分野で、「技術で勝って、事業で負ける」にならないか？
5. まとめ
6. 産業界の構造的変化
 - 1) サービス業自体も競争激化
 - 2) 5年～10年後の市場を読んだ戦略が必要、読みそこなえば、市場から退場
 - 3) 今ある技術が要らなくなる
 - 4) メーカーは、モジュール化、中小企業メーカーは、4分の1に減る
7. 企業の対策
 - 1) ネットでつながる
 - 2) 新たな設備投資が必要、統合して、体力をつける必要がある
 - 3) メーカー間では合併がM&Aの主役となる
 - 4) ホールディングカンパニー化が主役
 - 5) 売る戦略も大事
 - 6) イノベーションはベンチャーから—ベンチャー支援を積極的に！
 - 7) マーケットは海外へ、他